

早川一光先生のご逝去を悼んで

堀川病院元理事長の早川一光先生が、平成30年6月2日にご逝去されました。衷心より、御冥福をお祈り致します。

ご自宅でご家族に見守られながら、穏やかに旅立たれたと聞いております。ずっと先生の主張されてきた在宅医療に自らも身をゆだねる事ができ、満足して旅立たれたのではと思っております。

竹沢徳敬先生、村瀬一夫先生、日下本雄先生、そしてこの度は早川一光先生と、白峯診療所、堀川病院の草創期の先生方が亡くなり、胸にポカッと大きな穴が空いた感じで、寂寞たる思いです。

先生のご業績は沢山ありますが、私は「地域医療の確立」が一番大きなものだと思っております。半世紀以上前に、「自分達の健康は自分達で守る」という地域住民の志をくみ取る型で、診療所・病院の医療を展開しました。地域の代表者を理事として迎え、病院運営や経営に実質的に参画していただき、この方式は現在も継続しております。まさに、我々の病院は「地域医療の元祖」だと誇りに思っております。

また、実際の医療面でも色々な活動をされました。リハビリのあまり行き渡っていない時期に、脳血管障害などで身体不自由な患者さん達にリハビリの必要性を説き、「半歩でもの会」を結成しました。そして、月に何度か患者さん達を集めて、リハビリセンターで集団リハビリを行い、身体機能向上に維持を図るべく、患者さん、ご家族と一緒に努力しておられました。

また、KBSのラジオ番組で、一躍「ボケの先生」で有名になりましたが、ずいぶん以前より、痴呆症（認知症）の問題を取り上げ、「痴呆症の人と家族の会」を立ち上げ、患者さんのみならずご家族へのサポートを大切にしておられました。また同時に高齢者医療について医療面のみならず、社会面での問題点を色々指摘しておられました。数えあげればきりがありませんが、現在大問題となっている高齢者医療、特に認知問題やリハビリテーションの重要性などに、40年以上前から着眼し、警鐘を鳴らして来られました。今さら乍ら、先生の偉大さを実感すると共に、喪失感の大きさに気付かされます。

今、堀川病院は、日々の医療運営・経営に手一杯の状態ですが、これからも各々の大先輩方が残された栄光を曇らさないように頑張っていきたいと思っております。

早川先生、天国から私達を見守って、叱咤激励して下さい。

どうか安らかに眠り下さい。

平成30年6月
社会医療法人西陣健康会
理事長 近藤 泰正